

UTCP「共生のための障害の哲学」シンポジウム

専門知と当事者研究をつないで

シンポジスト：綾屋紗月／熊谷晋一郎／稲原美苗
オーガナイザー：岩川ありさ (UTCP)

2012年7月28日（土）13:00-16:30
東京大学駒場 I キャンパス
18号館1階ホール

使用言語：日本語 | 入場無料 | 事前登録不要

綾屋彩月「方法としての当事者研究」

熊谷晋一郎「当事者研究の自然化の試み」

稲原美苗「拒絶される声：間主観的言語障害学の可能性と当事者研究」

本シンポジウムでは、これまで障害の当事者研究を続けてきた綾屋紗月氏、熊谷晋一郎氏を迎えて、障害の哲学の新たな展開について話しあいたい。障害を研究する枠組み自体を当事者が問い、「専門知」と「当事者の知」を繋ぐことはできるだろうか。専門家が一方的にあてる尺度ではなくて、「ものさし」自体を当事者たちがデザインすることで、「専門知」と当事者研究は結ばれる可能性に開かれている。その際、構音障害をめぐる当事者研究について模索している上廣共生哲学寄付研究部門特任研究員の稲原美苗氏をまじえて、障害を研究することの意味について広く参加者との議論ができる場となることを目的とし、障害の哲学の可能性について模索する。

主催：共生のための国際哲学研究センター (UTCP)

上廣共生哲学寄附研究部門

L2「共生のための障害の哲学」プロジェクト